

## 平成27年度の年間の活動

### 1. 定常活動

#### 1) 姉小路界隈を考える会月例会議（年12回開催）

毎月第3金曜日19時から月例会議を開催しています。参加予定者には事前に協議事項を示した文書を配布します。会議は公開制とし、会員、町内会長、学識経験者、ボランティア、京都市職員、大学生等が参加し一般参加も自由としています。会議の結果は、月刊「姉小路まちづくり通信」を通じて周知しています。まちづくり通信A2版は、地域内10箇所に壁面掲示し、A4版を300部印刷し、姉小路界隈活動範囲に配布しています。



#### 2) 年次報告書作成（35号）

年度末には、活動内容をまとめた活動報告書を発行しています（300部発行）。この報告書にはその年次の事業報告、決算報告も掲載しており、28号（2009年3月31日発行）以降はweb-siteにもアップしています。報告書には、巻頭言、まちづくりへの言葉、事業報告、決算報告、事業計画のほか、設立以来の年表や、当該年度の新聞記事等を掲載しています。

#### 3) 月刊「姉小路まちづくり便り」発刊

当会のまちづくり活動の主要内容を12回に分けてリーフレット作成しています。表はイラストで視覚的に分かりやすく、裏はやや詳しい内容を解説しています。界隈各戸300軒と中京もえぎ幼稚園全園児180名、京都御池中学校全生徒1100名に教材を兼ねて無償配布しています。

### 2. 静かで落ち着いた住環境を守り育てるための活動

#### 1) 姉小路界隈まちづくり協議会への活動支援

昨年度に京都市市街地景観整備条例に基づく地域景観づくり協議会として活動を開始した「姉小路界隈まちづくり協議会」の活動支援を行っています。実際には、協議会の事務局全般を担当し、地域景観づくり協議会の周知（パンフレット作製等）、事前協議のための事業者、行政、地域住民の調整役などを行っています。

#### 2) 「京都を彩る建物や庭園」への推薦

これは京都の財産として残したい建物等を市民から募集し選定・リスト化する京都市独自の制度です。姉小路界隈を考える会は、これまで地域内の建物の推薦を行って

おり、現在では京都市内選定総数の10%以上が姉小路界隈に集中しています。今年度も、新たに2件(合計26件)を推薦し、これらの選定を記念した餅つき大会を行いました。

### 3) 新風館閉幕を惜しむ行灯点灯と看板ライトアップ

姉小路界隈の西玄関口には元電々公社旧京都中央電話局が存在し、京都における通信事業発祥の地です。この建物は市の文化財として登録されていますが、その付属建物がまもなく取り壊され、新しい商業施設とホテルに建替えられます。今までの施設とのお別れ記念のライトアップと行灯の点灯を行いました。



## 3. お互いに協力しながら、暮らしとなりわいと文化を継承するための活動

### 1) おばんざいの会開催

参加者が各家庭のご自慢の一皿を持ち寄る地域住民の交流会です。料理研究家をお招きして批評いただき、地域のお医者さんや文化人にもお出でいただき、体に栄養補強するだけでなく、頭に教養をつけることも大事かと考えています。



### 2) 大晦日の行灯点灯

ご町内最長老藤井八重さんのちぎり絵、昭和一桁京遊びを題材にした26種の版画(故木村祥刀氏作)の作品を張り付けた行灯で姉小路通を灯して新年をお祝いしました。年末年始時の行灯光源は、火の用心に留意し、ローソクではなく、地域住民が試作したミニコンピューター内蔵ハイテク行灯を用いています。

## 4. まちへの気遣いと配慮を共有し、安全に安心して住み続けるための活動

### 1) 姉小路行灯会開催

京都では夏の終わりの風物詩として地蔵盆の慣わしがあります。姉小路界隈では、地蔵盆の前夜祭として、姉小路通(烏丸通~寺町通)に600基の行灯を並べる「姉小路行灯会」を毎年開催しています。このときは、道路を一部車両通行止めにして、地元中学生、幼稚園児、ご近所タレントが出演するまちかどコンサートを開催します。今年度で20年目になりました。

## 2) まちなかを歩く日への参加

「安心して歩ける安全でひとに優しいまち」、「歩いて楽しい回遊と交流のまち」、「豊かな文化と活発な産業を育むまち」をつくることを目標にして、地域住民、地元自治連合会、地元まちづくり団体、事業者等で構成された「歩いて暮らせるまちづくり



推進会議」が主催する「京まちなかを歩く日」に参加しています。町家を使ったアマチュア写真家や芸術作品の展示、さらに地区内のギャラリーでは、京都市立芸術大学生製作の「まちなみ模型」の展示を行いました。また、夜は、夏の姉小路行灯会と同様に行灯を点灯させました。

## 3) 自転車の走り方マナー教室

姉小路通のような細街路 (W=6.5m) での歩行者安全のため、自転車レーン、走行方向を定める取組を続けてきました。同時に、自転車走行マナーと歩行者の意識を高めるために中京警察署の協力を得て、安全教室開催を毎年行なっています。



# 受賞を契機に新たに取り組んでいること

## 1. 設立20周年記念事業

### 1) 博学社連携事業

京都文化博物館と当会同様に発足20周年をむかえる京の三条まちづくり協議会と3者協働で行っている事業です。この事業の中で、2016年1月11日にシンポジウム「“まち”と“ミュージアム”の文化が結ぶ幸せな私たち2」、さらに同年1月16日から2月21日まで「博学社連携のとりくみ 文博界隈の歴史と文化」という展示を文化博物館にて開催しました。この展示の中で当会の20年間の活動の歩み等の資料・パネルを作成し、展示を行いました。



### 2) 20周年活動記録アーカイブ作成事業

平成7年に京都寺町の天性寺にて開催した発足イベントが京都新聞紙面に3ページにわたって報道されて以来、現在に至るまで約400篇の新聞・雑誌記事を掲載いただきました。これらの記事をデジタル化し、それを用いて、20年の活動記録集を作成しました。

## 2. 地域景観づくり協議会運営支援事業

### 1) 景観協議ツールとしての景観シミュレーションの試行運用

京都市は、地域住民が将来の街並み景観についての検討をするための景観シミュレーションシステムを開発し、同システムを内蔵したパソコンを市民に貸し出しをしています。これは、デジカメで斜め前方から左右2方向を撮影し、パソコンに画像を取組んだ後は、図示されるXYZ軸に沿ってマウスを操作すると、自分で撮影した建物を簡単に3D化してパソコン画面でシミュレーションができる優れたシステムです。

姉小路界隈では、地域景観づくり協議会などの事業者等との協議にこのシステムを利用することを検討しており、その試行として、新しく建設が予定されている商業等施設と周辺景観との関係を検証するために必要なデータ作成を行いました。

## 調査検討費の使途

- 地域景観づくり協議会活動立ち上げ支援
  - ・ 地域景観づくり計画書冊子作成
  - ・ ホームページ作成
  - ・ 掲示板作成
  - ・ 協議ツール（景観シミュレーションデータ作成）
- 20周年記念事業
  - ・ 博学社連携事業のパネル・資料作成
  - ・ 20周年活動記録アーカイブ作成

# 近い将来取り組まなければならない課題

## 1. 地域景観づくり協議会の持続的運営

### 1) 地域景観づくり協議会の持続的運営方法の構築

姉小路界隈を考える会では、この平成27年3月に地域景観づくり協議会事務局を開設以来、この1年間ですでに12件の協議を完了しました。とても忙しいですが、飲食店開業や看板設置など多様な協議対象が出てきています。この間の経験から、近隣住民に案件に応じて丁寧に意見を聞くこと、また新しく来る方にむけて一緒になって良好な環境を創造していこうという意志を伝え実行につなげること、この2つが重要であると感じています。

### 2) 地域景観づくり協議会の運用経験の共有

この制度は京都市が全国に先駆けて創設したと聞いています。なかなかしんどい点もありますが、住民自らが主体性を持って、自分達の環境や景観を守り、育てていくためには大変優れた可能性があると思います。今後の制度の周知や運用には、京都市にもさらに踏み込んでもらい、地域と協力連携することが大切だと思っています。また、全国の皆様もこの制度にご注目いただきたいと願っています。京都市内では7地域が制度を導入しており、その連絡会にはNPO法人京都景観フォーラムにお骨折りいただきご紹介と御礼を申し上げます。

## 2. 民泊、ゲストハウスとの共生問題

最近では、姉小路界隈にもゲストハウスが散見されるようになってきました。それに加えて、民泊も増えてきており、地域住民からは環境悪化等に関する不安を持つ声も聞かれるようになってきています。しかし、なかには地域との良好な関係を期待するゲストハウス運営者がいることもわかってきました。

そこで、これまで長年にわたり地域が気づいてきた歴史、文化、環境に関する情報をゲストハウスの運営者、宿泊者に伝えることにより、現在よりも良好な関係が期待できるのではないかという仮説に基づいて、多言語による地域情報の発信に取り組みたいと思っています。